

2024 AUTOBACS SUPER GT Round4

FUJI GT 350km RACE

NISSAN MECHANIC CHALLENGE

学生広報 レースレポート

「一人でも多くの若者をクルマ好きにしたい」という思いからスタートした日産自動車・日産自動車大学校・KONDO RACING が共同で取り組む人財育成プロジェクト、日産メカニックチャレンジが富士スピードウェイで開催された SUPER GT 第4戦に参戦した。



日産神奈川 日産東京 日産大阪 日産プリンス福島 埼玉日産 日産プリンス埼玉 岐阜日産 愛知日産 日産プリンス名古屋 滋賀日産 京都日産 兵庫日産 愛媛日産 鹿児島日産 帯広日産 日産青森 日産サテオ弘前 日産プリンス宮城 秋田日産 日産プリンス秋田 福島日産 栃木日産 日産プリンス栃木 群馬日産 長野日産 松本日産 日産サテオ埼玉 千葉日産 日産プリンス千葉 日産自動車販売 三重日産 日産プリンス三重 静岡日産 日産プリンス静岡 浜松日産 日産プリンス兵庫 奈良日産 和歌山日産 日産プリンス和歌山 日産プリンス広島 日産プリンス山口 香川日産 日産福岡 日産サテオ佐賀 長崎日産 日産プリンス長崎 日産プリンス大分 旭川日産 北見日産 岩手日産 盛岡日産モーター 日産プリンス岩手 日産サテオ秋田 新潟日産 日産サテオ新潟西 甲斐日産 日産プリンス山梨 日産サテオ千葉 日産サテオ湖南 富山日産 日産サテオ富山 石川日産 福井日産 岡山日産 宮崎日産 日産サテオ宮崎

専門
学校 日産横浜自動車大学校

日産メカニックチャレンジとは

2019年よりスタートした、日産自動車、日産自動車大学校、KONDO RACING が共同で取り組む人材育成プロジェクト。全国の日産販売店から選抜された整備士（テクニカル・スタッフ、以下 TS）の皆さんと日産自動車大学校の学生が、近藤真彦監督率いる KONDO RACING と共に国内最高峰レースである『SUPER GT・GT300』の舞台に挑む。

TS はレース一週間前から予選、決勝当日まで KONDO RACING TEAM とすべての活動を共にする。日々の業務で培った技術力を武器に、チームの一員としてレーシングカーの整備などを行うことで勝利に貢献するだけでなく、普段の業務では得ることのできないスキルや経験の獲得を目指す。



KONDO RACING 監督 近藤 真彦 監督インタビュー

Q1 今回のレースの調子はどうですか？

公式練習で予選トップのタイムを出せたから調子はいいよ。ただチーム内では、ぎりぎりのトップではだめで、二位との差をできるだけまで離れたかった。ぶっちぎりのトップを目指す中で走行中にスピンしてしまったがそれはチャレンジの結果なんだよね。もちろんぎりぎりの世界で戦っているからああいうことは起こってしまう。あのスピンで、もしガードレールにぶつかってマシンを壊してしまうようではプロフェッショナルとは言えないよね。プロフェッショナルは上を目指してチャレンジするが、チャレンジするべきタイミング、場所が的確に判断できることが求められるかなと思うな。

Q2 なぜ日産メカニックチャレンジに協力してくださるのですか？

もちろん若い子を育てるのは一番の目的ではあるよ。ただ最近の世の中では若者の車離れが加速してるよね。だから、ただの移動手段としてのクルマじゃなくて、“走る”車を体感してもらって運転の楽しさっていうのを実感してほしいな。若い子にはほんとたくさん運転して楽しさを知って、世の中にどんどん広げていって欲しいな！

Q3 監督が一番楽しかったクルマはなんですか？

一番初めに乗っていた BMW はすごく乗り心地がよくて楽しかった。そのあとに買った日産プリメーラという車が BMW に近い感じで楽しく乗れたかな。プリメーラはドイツで走り込み、作られた車だからほんとにしっかりしていてとても楽しかったな。

Q4 神奈川や日産に関する思い出はありますか？

僕は、生まれは横浜市で、育ちは大和市なんだ。実は生まれは瀬谷区というちょっと田舎だから、カッコつけて横浜市出身っていつも言ってるな(笑)。もともと日産の本社は銀座にあったんだけど、横浜に移転してきてからはやっぱり横浜つながりというのは感じるかな。

あとは、うちでは「イイコトチャレンジ」というマラソン大会を横浜の日産スタジアムで開催してるんだよね。リレー形式でやってるから来年はぜひ参加してね(笑)。

そういったことも含めて日産や横浜とは縁があるなと感じています。



ドライバーインタビュー

Q1. 今シーズンの調子はどうですか？

佐々木 大樹選手 ドライバーの調子は結構良いと思います。レギュレーションが厳しくなり勝つことが難しい状況ではあります。開幕戦や前回の鈴鹿では辛い部分もありました。ただドライバーはどんな状況であれベストを尽くすほかありませんね。ただ今回の富士はしっかりファイトできそうな状況ではあるので、条件がそろったときに勝てるようにコンディションを整えていく中では良い状態にあるといえますね。

JP オリベイラ選手 今回のレースは第4戦ということでシーズンの折り返し地点に立っているといえますが、僕たちにできることはどんな状況でもただ一生懸命に走るだけです。今回の富士戦ではチャンスは十分あるので頑張りたいと思います。

Q2. ドライバー二人のお互いの良い点と悪い点を教えてください

佐々木 大樹選手 JPさんはいつも面白くて、海外ラウンドがあるときはJPツアーをいつも楽しみにしています。あとは、いくつになっても衰えることなく車を速く走らせることができているのがとてもすごいと思います。

JPさんはとてもアグレッシブでレースにおいてはとても強いし必ずチェッカーまで持ってきてくれるんだけど、どこかが壊れて帰ってくるから(笑)。今回は“NO HIT”でお願いしたいかな(笑)。

JP オリベイラ選手 佐々木選手とは長い付き合いなのでお互い高め合える仲だと思います。僕から提案することもあるし佐々木選手から学ぶことも多いのでとてもいいコンビだなと思います。レースにおいてこういう関係はとても大事ですよ。

悪い点は特にないが強いて言うなら、真面目過ぎてジョークがあまりないことかな。もっとラフにリラックスしてもいいかもしれないな。もちろん佐々木選手がプロフェッショナルだと理解しているから全く問題ないけど(笑)。もっとリラックスしてもいいとは思うかな。



Q3. 夏のレーシングカーはとても暑いと思いますが、どう乗り越えていますか？

佐々木 大樹選手 僕は暑さに弱いのでエアコンなしでは全然だめです(笑)。J Pさんは凄くて、夏のテストだとエアコンを付けずに走っていることもあります(笑)。いくつになってもストイックでそれがJ Pさんの速さの秘訣なのかなと思います。

JP オリベira選手 僕はよくサイクリングに行くので、暑さには慣れているほうだと思います。サイクリングが暑さに慣れるいいトレーニングとなっています。自転車だとたくさんペダルを漕いで進まないといけないが、GTカーはただ座って車内はエアコンが効いているので快適だよ(笑)。とはいえ今回レースはタフなコンディションなのでエアコンをフル活用してドライブするよ。



GT300 クラス レース結果

No.56 リアライズ日産メカニックチャレンジ GT-R

2024/08/03(SAT): 土曜日 晴れ ドライ

今回の SUPER GT 第 4 戦では、予選前に行われた Formula 4 のレース中に起こったコース上の
オイル漏れの影響によりウェット宣言時のフォーマットで実施された。

予選 1 回目の走行では予選 3 位である 1:38.591 をマークした。

その後のアタックで 1:38.133 をマークするも最終的な予選の順位は 6 位という結果となった。

2024/08/04(SUN): 日曜日 晴れ ドライ

前日の予選の結果、6 位スタートとなった 56 号車はその後好調に飛ばしていき、レース 49 周目に
J P 選手が 88 号車 ランボルギーニを捉え、4 位に浮上した。

その後 2 位の 4 号車 AMG に迫り、接戦を演じるも惜しくも 3 位でチェッカーフラッグを受けた。

厳しい車両規制の中、3 位入賞という素晴らしい結果で Rd.4 富士戦の幕を閉じた。





TS インタビュー

Q. 今回のメカニックチャレンジで学んだことをどう仕事に活かしたいですか

千葉日産自動車株式会社 中川 尚甫さん 日産横浜自動車大学校 一級自動車工学科卒

メカニックチャレンジで学んだことは、まずクオリティの高さです。例えば、走行中の条件の測定に関しては、どんな時に情報収集するのか、それをどのように活用していくのかというのをものすごく細かく管理されています。それは販売会社でも応用できるかと思えますので活用していきたいと思っています。



日産東京販売株式会社 吉田 恭輔さん 日産横浜自動車大学校 自動車整備科卒

整備のスピードと正確さに関してはレースだけでなく、販売会社でも同じく変わらないことなので確実な整備をしてお客様を長い時間待たせることなく整備するというのが普段の仕事でも活かすことができるかなと思います。



学生インタビュー

Q. 日産メカニックチャレンジで学んだこと、感じたことを教えてください

日産横浜自動車大学校 一級自動車工学科 二年 白石さん

幼いころから憧れを持っていたレース業界に学生という立場でお手伝いさせていただき、画面越しでは感じられないレースの雰囲気、メカニックさんたちの表情をみてどれだけ真剣なのかというものが伝わってきました。また、自分が触った車がサーキット上を走っているというところで自分の作業に責任を持ちました。その結果今回3位入賞することができたというところで、少しでも自分が力になっていたらうれしいなと思います。また機会があればぜひ参加したいです！

日産横浜自動車大学校 一級自動車工学科 一年 伊藤さん

私がこの活動を通して感じたことは、ホスピタリティ活動の難しさです。お客様が何をしたいのか、何をすれば満足していただけるかを考え、お客様よりも先に行動することが難しかったです。またそのような経験は今までしたことがなかったのでとても良い経験となりました。ありがとうございました！

先生インタビュー

Q. 日産メカニックチャレンジで学生に学んでほしいことは何ですか

日産横浜自動車大学校 校長 井出 先生

将来整備士として働く学生が多いと思いますが、いざ働くときに“お客様の気持ちをどのように汲み取り、それをベースにどのように対応するか”だと思います。その能力はこのメカニックチャレンジの活動を通していろいろな人と触れ合いコミュニケーションをとることで学ぶことができると思います。もう一つは、“クルマ”というものがどれだけすごい技術なのかというところを肌を感じ、将来“自動車業界で働く”ということをしかりと考えてもらいたいと思います。

日産横浜自動車大学校 高梨 先生

学生の皆さんにはとにかくいろいろなことにチャレンジしてほしいと思います。そのチャレンジで成功や失敗を体験して成長のきっかけを掴んでもらいたいと思っています。学生の皆さんを悪く言うつもりはありませんが、「自信がない」とか「成功した体験がない」から前に進めず、ほんとはやりたいけどできない、というような若者が多い気がしています。そういった心境でもこういったイベントでとにかく一步踏み出す経験をしてほしいと思います。

いろいろな経験からきっかけをつかみ、大きく躍進することを期待しています。

あとがき

今回のレースは当初雨が降ることが予想されていたが悪天候に見舞われることなく幕を閉じた。予選前の公式練習ではトップタイムをマークした56号車はその後の走行でスピンしながらでもギリギリの挑戦を続け、決勝前日は午前1時まで車両の調整、整備を続行して決勝に備えた。

決勝当日、6番グリッドからのスタートとなったが好調に順位を伸ばし、3位でチェッカーを受けた。佐々木選手とJPオリベイラ選手の果敢な挑戦、メカニックやチームスタッフ、TS、学生、すべての人の協力の賜物だろう。

今回のメカニックチャレンジの活動では、自分たち広報班含め、学生にとって大きく成長する機会となった。この活動で得た経験をこれからの学生生活で活かしていきたい。

この素晴らしい活動を企画していただいたすべての関係者の皆様に深く感謝を申し上げます。

ありがとうございました！

文：河野好晃

